

中核事業として 技術力で 顧客課題解決を

株式会社 HCS ホールディングス

代表取締役社長 加藤 俊彦



老舗として“日比コン”で 名を馳せた時代

日本ユニシス株式会社に在籍していた頃、株式会社日比谷コンピュータシステム (HCS) は私のお客様でした。その縁があったから今の私があると思っています。当社の脈々と続いてきた50年の歴史は、決して平坦なものではありませんでした。親会社の倒産、優良顧客だった証券会社の自主廃業など、次々と押し寄せる歴史の荒波。そのなかで逞しく生き残ってこられたのは、基幹システムの開発という領域においてまじめに、一生懸命に取り組み、コツコツとお客様の信頼を得てきたからでしょう。当時は“日比コン”などと呼ばれ、この業界では老舗として名が通っていたと記憶しています。

変化の目まぐるしいIT業界で、50年生き残るのは容易なことではありません。一方で、同じような業界のなかではすでに上場している企業も多く、パブリック・カンパニーとして存在感を示しています。当社も上場の姿を模索してきました。いくつかの試行錯誤を繰り返した後、2016年にホールディングス体制に移行したのは、皆さんご存じのとおりです。

積み上げたものと先進性の バランスを保つこと

ホールディングス化の最大のメリットは、親会社は経営戦略に専念でき、事業会社は各々の事業運営に専念できるので経営効率や企業再編の迅速化が図れることにあります。株式上

場を見据え、HCSホールディングスでは、『ICTを人間の良きパートナーとして活用し、日本の「少子高齢化・人口減少」「環境資源問題」などに取り組み、「課題解決先進国ニッポン」の持続可能な成長に貢献するとともに、その技術を世界に発信する』というミッションのもと、各事業会社がそれぞれの分野で取り組んでいます。

そのなかで、HCSはエネルギー・運輸・製造・金融などの社会基盤にデジタル化の導入を推進し、労働生産性の向上を目指し、さらにグリーン化支援に取り組んでいってまいります。従来の古き良きスタイルに加え、現代日本の社会理念に適合し先進性とのバランスをうまく取り、多様化する問題を強力に解決していってほしいと期待しています。

HCSホールディングスグループ構成図

